

# Network

The Japan Society of Archives Institutions Kinki District  
Branch Bulletin  
全史料協近畿部会会報デジタル版  
No.97  
2026.3.4 ONLINE ISSN 2433-3204

## 全史料協近畿部会 2025 年度 AtoM 入門実習実施報告

2025 年（令和 7）12 月 13 日（土）  
会場：近畿大学東大阪キャンパス

### テーマ：オープンソースのデジタルアーカイブシステム AtoM の操作実習

辻川 敦（全国歴史資料保存利用機関連絡協議会会長）

今年度も AtoM の入門実習を実施しました。約 3 時間のプログラムで、前半は櫻田和也講師（特定非営利活動法人記録と表現のメディアのための組織 NPO 法人 remo）がデジタルアーカイブの基本概念及び AtoM の概要について解説。後半は AtoM により構築したデジタルアーカイブシステムに実際にログインし、説明を聞きながらデータを登録する実習でした。

今年度からノート PC 持参方式に切り替え、さらにオンライン参加も受け付けるという新たな方式で開催しました。オンライン併用は初めての試みであるため、実施上の課題もいくつかみえてきました。

全史料協としては、2026 年の創立 50 周年を機に AtoM を活用したウェブサイト構築も検討しています。今後、AtoM 実習の重要性がさらに増すことが予想されます。

### 実習参加記

小倉 久美子（追手門学院大学学院志研究室）

2025 年 12 月 13 日（土）、近畿大学東大阪キャンパスにて開催されたデジタルアーカイブシステム「AtoM」の入門実習に参加いたしました。当日の参加者は 8 名で、そのうち 1 名はオンラインでの参加でした。関西圏以外からの参加者も見受けられ、その向学心の高さに深い刺激を受けました。

実習の前半は、大阪樟蔭女子大学准教授の櫻田和也氏より「デジタルアーカイブの実装と運用：AtoMを事例として」と題した講義が行われました。アーカイブズの基本定義から、ICA（国際文書館評議会）が定める記述規格、AtoM の概念および構築プログラムの概要まで、幅広く解説をいただきました。事前にAtoM について予習して臨んだこともあり、先生の簡潔かつ明快な解説によって、知識をより確かなものにすることができました。

後半は、持参したノートPC を使用し、あまがさきアーカイブズから提供された実習用データ（加藤省吾氏文書目録・文書群概要・文書画像データ）を用いて、AtoM への登録や編集作業を体験いたしました。実際にシステムを操作することで、AtoM の構造に対する理解がより一層深まったと感じています。

とりわけ、AtoM の特徴である階層構造については大きな気付きがありました。学院志研究室では、これまでメインの目録と簿冊目録を個別に作成してきましたが、AtoM ではそれらを一元化し、さらにデジタルデータ（JPEG や PDF 等）を紐付けて管理できる点に最大の魅力を感じました。ICA の基準を学校資料に適合させるには一定の工夫が必要と思われませんが、柔軟な運用次第で、より有機的なアーカイブの構築が可能になると確信いたしました。

政府が「知的財産推進計画 2024」で指針を示している通り、歴史的・文化的価値を有する資料のアーカイブ化は急務となっています。デジタルアーカイブのプラットフォームである「ジャパンサーチ」が運用されていますが、集約されているシステムが多種多様であるため、利用者側の視点では課題も残されています。将来的には、日本国内においても AtoM のような標準的システムが政府主導で広く展開されることを期待しております。

2月に開催予定の実践実習については、業務の都合により参加が叶いませんが、来年度にはぜひ受講したいと考えております。このような貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。